

学年
通信

魂知輪

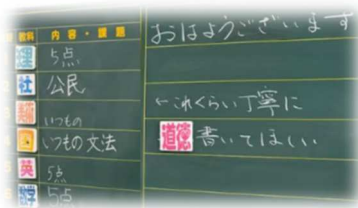
令和7年2月14日
第42号
小代中学校3年生
発行者:梅谷俊平

字は一生もの・字は体を表す

数日前の連絡黒板が非常に丁寧な字で記入されていました。見ていて、とても気持ちが良いものでした。「字は一生もの」という言葉を聞いたことはありますか？その言葉がどういう意味で使われているのか、なぜそうなのかということ疑問に思い調べてみたので、紹介したいと思います。

【字が一生ものな理由】

美しい文字は、相手に見やすく読みやすいので、好印象を与えやすい
礼儀正しそう、賢そうといった良い印象を抱かれやすい
文章を書こうという意欲や、一生懸命さが伝わる
手書きすることで記憶力が向上する
創造性やリラックス効果が期待できる



【字をきれいに書くコツ】

ペンを正しく持つ 正しい姿勢で座る 落ち着いて集中できる空間を作る
正しい書き順で書く とめ・はね・はらいを丁寧に 線と線の間隔が等しくなるようにする
大きさにメリハリをつけながら、ゆっくり書く 右上がりになるようにする

『字は体を表す』という言葉があります。美しい字でなくても、丁寧に気持ちを込めて書くことが大事だと思います。

私自身が字を書くことが苦手で、すぐにコンピュータに頼ってしまいます。今はデジタル教科書が普及し、手紙もメールやLINEと電子化してきました。世の中がICT化しても、電子書籍が流行っても、ボタン一つで買い物ができる時代であっても、どこかで手で書く時が必ず訪れます。その時のために、丁寧に気持ちを込めて書く意識をしてみませんか？

友・義理・本命…？

バレンタインデーといえば、好きな人にチョコレートを贈るというのが、一般的な認識かと思いますが、それは日本オリジナルの文化だったのです。ライアン先生に尋ねると、最近ではアメリカでもチョコレートを贈ることがあるそうですが、神戸の洋菓子店モロゾフが1936年に英字新聞に「バレンタインにチョコレートを贈ろう」という広告を掲載したことが、

『バレンタインデー＝チョコレート』というイメージが定着したきっかけとされています。100年も経過していないことには驚きですね。最近では新聞広告やメディアによって色々な種類のチョコレート『本命チョコ・義理チョコ・友チョコ』等が登場しました。

バレンタインデーと言えば、チョコレートだけに苦い思い出があります。小学1年生の時に同級生からチョコレートを貰ったのですが、その頃は、そのような感情を持ち合わせておらず、ただ単にお菓子を貰ったという感覚でした。1ヶ月後、母親に、お返しのクッキーを作りなさいと言われ、数時間かけて、訳も分からないまま、母親に言われるとおりに作業をし、手作りクッキーを用意しました。家まで届けましたが、それ以降何もありませんでした。今だからこそ、「何もないんかい！」とツッコミを入れたくなりますが、当時は、「チョコレートを貰ったら大変だ」と毎年違う意味でドキドキしていました。

2年生の道徳の教科書に載っていた、「アイツとセントバレンタインデー」というお話を覚えていますか。真一と夏樹のハラハラドキドキの展開は、私は残念ながら経験せずに今を迎えるのですが、自分の気持ちは相手に正直に、誠実に、丁寧に、相手の立場に立って考えて、伝えるということが大切なことだということをまた、思い出しておいてください。

